



帯電防止

人体に帯電する静電気を少なくし、快適な空間にします。

	評価	表面電気抵抗値 (Ω)	体積電気抵抗値 (Ω)	人体帯電圧 (kV)
ルースレイ40NW-EX	B	5.6×10^9	2.3×10^9	0.2
ルースレイ50NW-EX	B	1.2×10^{10}	3.8×10^9	0.3
ルースレイ50NW-EX (高耐久仕様)	C	1.8×10^{10}	1.0×10^{10} 以上	0.6
ルースレイマスターNW-EX	B	4.9×10^9	3.8×10^9	0.6

東りでは、体積電気抵抗値 1×10^{10} 未満のものを帯電防止製品としています。
※体積電気抵抗値、並びに人体帯電圧は、下地の材質によって異なりますのでご注意ください。

不陸隠蔽

タイルの厚みでパネル間の段差や目地スキをカバーします。また寸法安定性や柔軟性にも卓越しているので割れる心配ありません。

◎：発現しない

○：少しあるが目立たない

×：はっきり分かる



キャストの往復回数	50	100	150	200
ルースレイ40NW-EX	◎	○	○	○
ルースレイ50NW-EX	◎	○	○	○
ルースレイマスターNW-EX	◎	○	○	○
一般複層ビニル床タイル(2mm)	×	×	×	×

【試験方法】 温度:23℃ 湿度:25%

① 表面電気抵抗試験 (東り独自試験) 2つの電極間を直流電圧が床材を通してどれだけ流れるかを試験。 数値が小さいほど、静電気が発生しにくいことを示します。	② 体積電気抵抗試験 (JIS A 1454準拠) 電極の一方を金属板に設置して電極間の電気抵抗値を測定。 数値が小さいほど静電気が発生しにくいことを示します。
--	--

【評価基準】

ランク	結果(体積電気抵抗値)	用途の目安
A	$1 \times 10^4 \sim 1 \times 10^7 \Omega$	導電グレード。コンピュータ制御室等
B	$1 \times 10^7 \sim 1 \times 10^{10} \Omega$	帯電防止グレード。機器の組み立てライン・OAオフィス、手術室、検査室、薬剤室
C	$1 \times 10^{10} \Omega$ 以上	一般グレード。静電気の発生の憂慮されない場所

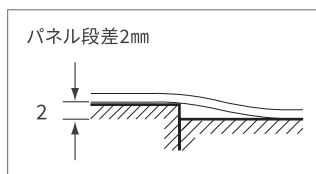
【データの判定目安】

床材の帯電防止性は、体積電気抵抗値で判定します。**電気抵抗値が低い**ほど、静電気を逃がしやすくなります。
また、一般に床材の電気抵抗値は湿度の影響を受け、湿度が高いほど、電気抵抗値は低くなります。

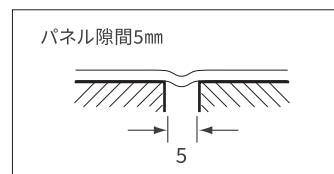
【試験方法】

段差と隙間を作り、キャストを往復させ、表面への不陸の発現を評価する。
温度:20℃ 荷重:30kg/一輪 キャスター:50φ×20mm ゴム輪

■ 不陸発現性テスト(段差2mm)



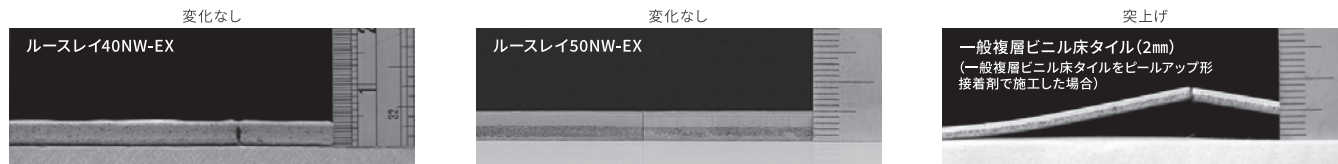
■ 不陸発現性テスト(パネル隙間5mm)



※施工の際はパネル段差1mm以下、隙間は2mm以内に抑えてください。

突上げのおこりにくさ

優れた寸法安定性とタイルの厚みによる自重の働きにより、温度変化などによる突上げが非常におこりにくくなっています。



※一般複層ビニル床タイルはビールアップ形接着剤での施工はできません。

	15℃	25℃	35℃
ルースレイ40NW-EX	○	○	○
ルースレイ50NW-EX	○	○	○
ルースレイマスターNW-EX	○	○	○
一般複層ビニル床タイル(2mm)	○	約3mm突上げ	約5mm突上げ

※突上げの原因は、ほとんどが詰めすぎによる施工と、温度変化によるものです。
突上げの発生を極力抑えるためにも、室温10℃以上で施工することをおすすめします。

【試験方法】

5℃において2枚のタイルを突き合わせ、ビールアップ形接着剤を用いて施工後、昇温させタイルの状態を観察する。

■ 工法

工法	下地	接着剤	塗布量目安
ビールアップ工法	スチール・プラスチック・塩ビタイル 乾燥したモルタル・木造床(合板など)	エコGAセメント・ エコGAセメントEX	40~60g/㎡ 60~100g/㎡
一般工法	乾燥したモルタル・コンクリート下地	エコAR600	300g/㎡
耐湿工法	湿気のおそれのある モルタル・コンクリート下地	USセメント・US300・ 東り低臭USセメント	360g/㎡
		エポグレイ-ST	400g/㎡ (A液・B液混合後)

- 施工の際はタイル表面の矢印で流れ方向をご確認ください。
- 二重床表面仕上げ材として使用する場合は、下地パネルとルースレイタイルの目地を半分または1/3程度ずらして施工します。(またぎ貼り・1/2スライド工法または1/3スライド工法)
- 室温10℃以上での施工をおすすめします。
- 室温15℃以下では、タイル間に名刺一枚分の隙間を空けて施工してください。
- 下地に段差・隙間・凹凸のある場合、その程度によってタイル表面に目立って現れる場合があります。
- 下地追従タイプのフリアクセスフロアに施工する際は、パネルの傾きにより目地段差が生じる場合があります。施工前にフリアクセスフロア(下地)が平滑であることをご確認ください。



■ メンテナンス

※「NW-EXシリーズ」はワックス液をはじいてしまうため、ワックス塗布には指定の前処理が必要になります。詳細はユーザーズマニュアルをご参照ください。

- メンテナンス用樹脂ワックスを塗布する必要はありません。日常的にモップ、固く絞った雑巾などでヒールマーク等の汚れを取除いてください。目地に沿った清掃をおすすめします。
- 取除くにくい汚れには中性洗剤を使用してください。
- 面積の大きな施設では、洗浄力の優れた自動床面洗浄機を推奨いたします。
- 高耐久UV樹脂コーティングが摩滅してしまうため、ドライメンテナンスは行わないでください。

■ ご注意

- タイル間の柄合わせはできません。(TTN1204・TTN1205・TTN1210・TTN1211・TTN1301についても不可)
- 四面取品(TTN3303・TTN3304)の面取部分には高耐久UV樹脂(EX仕様)コーティングはありません。
- ルースレイ50NW-EX(高耐久仕様)は帯電防止性能はありませんが、タイルカーペット同等の制電性能(人体帯電圧1kV以下)を有しています。
- 建物の出入口には、必ず除塵マットを設置してください。(砂、砂利等で表面に傷がついてしまった場合、汚れが傷に入り込んでしまい、汚れ落ちが悪くなります。土砂の持込みの可能性がある路面に面した部位で使用される場合は、除塵性の高いマットをできるだけ広い面積で設置してください。)
- その他の注意事項については、サンプル帳裏面および総合カタログをご覧ください。

■ ご注文について

ご注文の際は、色見本の下の品番にてご用命ください。